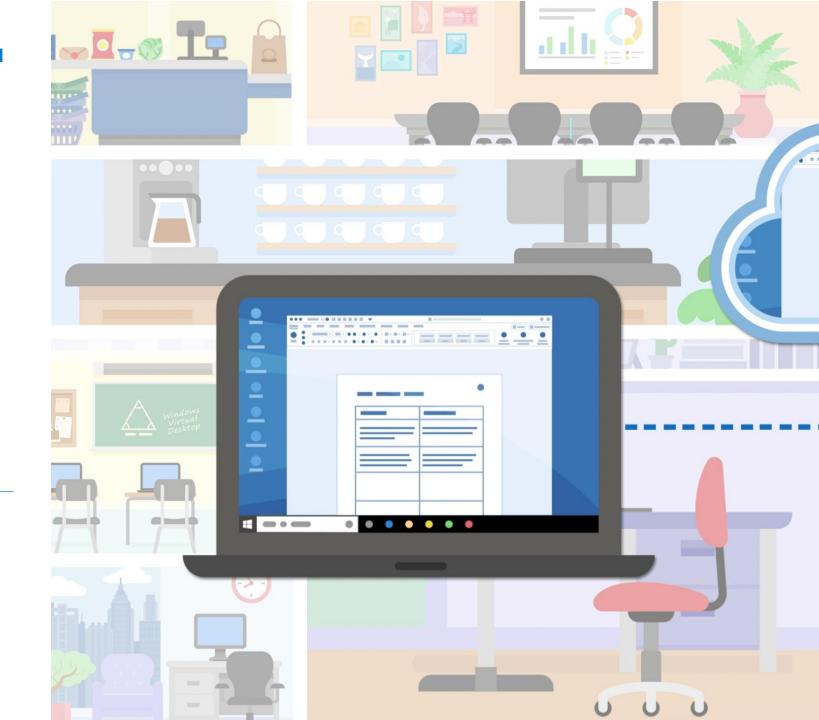
コロナ禍で広がる
Windows Virtual
Desktop (WVD) の
利用と今後の
トレンド

日本マイクロソフト株式会社 Azure ビジネス本部 エグゼクティブ プロダクト マネージャー 岡本剛和



日本の WVD (Windows Virtual Desktop) マンスリー アクティブ ユーザー (MAU)

150倍

2020年3月1日 2021年2月28日





ジェーシービー

WVD の採用によって JCB が目指す姿とは? クレジット業界のパイオニアが取り組む働き方改革

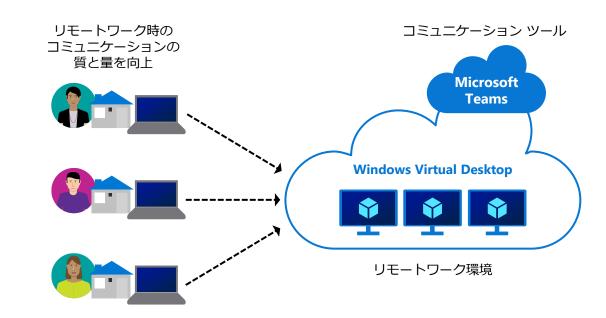


背黒

- 2019 年からリモートワーク環境の試験 運用開始
- コロナ禍の影響によって、より短期間 での導入が必要
- 暫定リモートワークでは、コミュニ ケーションの質と量に改善の余地
- Microsoft Teams などコミュニケーションツールの利用も同時に検討

選定 ポイント

- ◆ クラウド型仮想デスクトップ サービス の「スピード感」
- マイクロソフトのコミュニケーション ツールとの親和性
- 問い合わせをしてからのレスポンスが 早いことと、協力会社側との体制的な 連携や相性





インフラを整備するだけでは「生産性の向上」というリモートワーク導入の本来の目的を達成することはできません。

まずはユーザーに新しいインフラ (リモートワーク環境) とコミュニケーション ツールを使った働き方に慣れ、習 熟してもらい、そのうえで、業務プロセスの改革を進め ていくことが重要と考えています。

株式会社ジェーシービー 人事部 部長代理戸田 峻介 氏

テクノプロ・ホールディングス株式会社

エンジニア研修を WVD で実現! テクノプロが構築したリモート・トレーニング環境とは

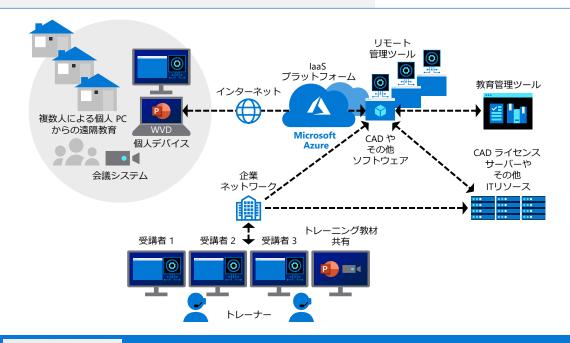


背黒

- 従来から東京や大阪などの研修場所で 最先端のテクノロジーのトレーニング を実施
- 2020 年、最初の緊急事態宣言が発令後、 多数のエンジニアを同じ場所に集める ことが困難に

選定 ポイント

- クラウドならセキュリティと運用の 課題を解決可能
- 東西の日本リージョンを利用できるの が最適
- トレーニング環境には Windows 10 が ベスト
- マルチセッションなら運用コストも 削減可能





オンプレミスでハードウェアを調達する場合は、余裕を持ってサイジングを行うため、オーバースペックになるケースも多いのですが、クラウド型の WVD ではそういった問題は起こりません。

実際、CAD のトレーニングを実施した際にリソースが足りないケースも出てきたのですが、とても簡単にリソースを増やして対処することができました。

テクノプロ・ホールディングス株式会社 IT インフラ部 部長 サルマ ビナヤ 氏

コロナ禍で進む導入

比較的、導入が活発な業界







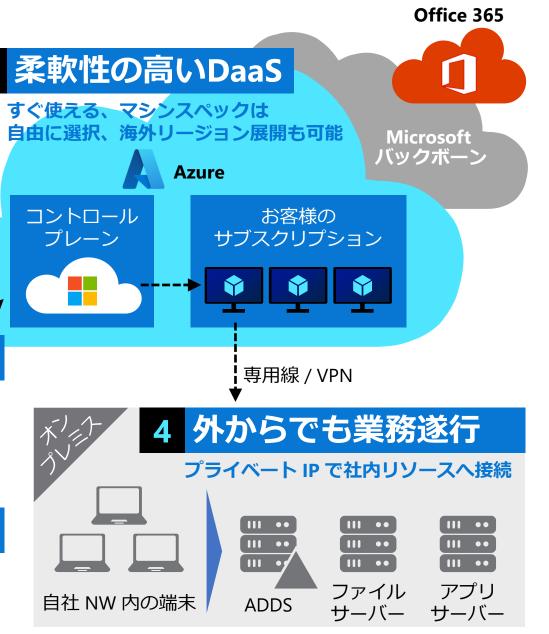


検討背景

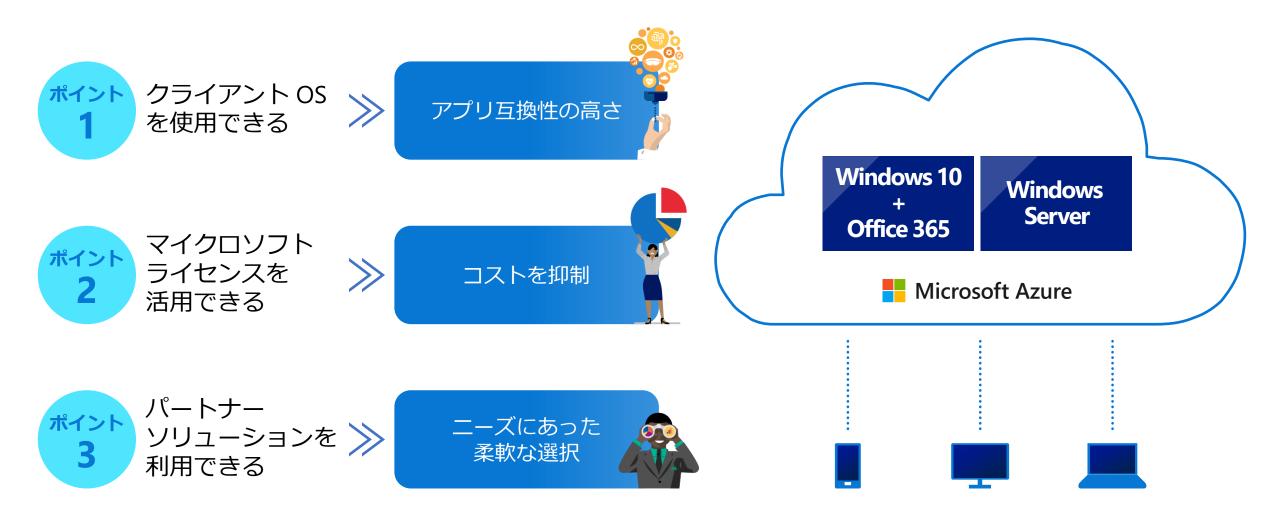
- 既存のリモートワーク 環境がなく、業務に 大きな支障が発生
- アクセス増加で VPN が パンク
- これを期にクラウドの 利用を促進



(データ保管禁止)

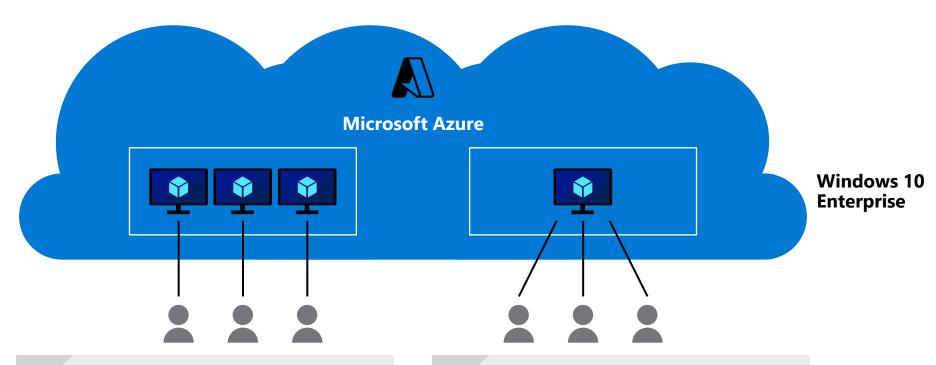


Windows Virtual Desktop の特徴





プレクライアント OS を使用できる



シングルセッション

- 1人が1台の環境を占有
- アプリの互換性が非常に高い
- 管理者権限を付与できる

マルチセッション

- 複数人で 1 台を共有利用
- クライアントアプリが動く
- コストを抑えられる

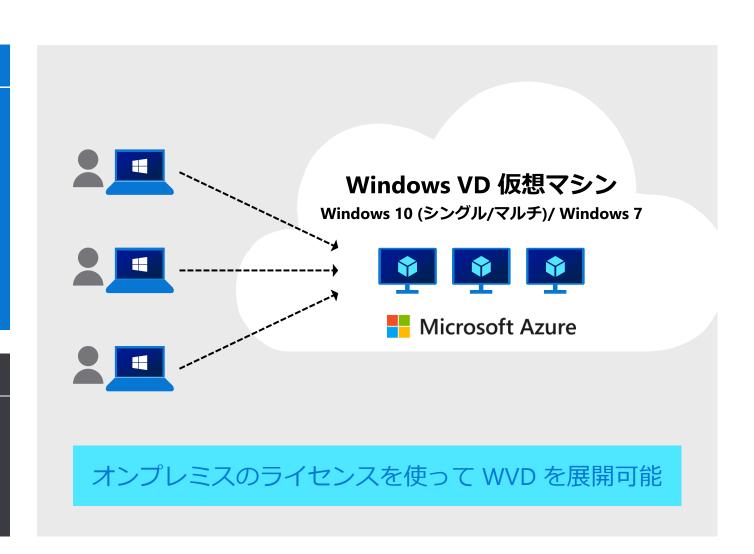
マイクロソフトライセンスを活用できる

Windows 10/7

- Microsoft 365 E3/E5
- Microsoft 365 A3/A5/Student Use Benefits
- Microsoft 365 F3
- Microsoft 365 Business Premium
- Windows 10 Enterprise E3/E5
- Windows 10 Education A3/A5
- ユーザーあたり Windows 10 VDA

Microsoft 365 Apps (旧 Office 365)

- Microsoft 365 Apps for Enterprise (旧称 Office 365 ProPlus)
- Microsoft 365 Business Premium (旧称 Microsoft 365 Business)





パートナー ソリューションを利用できる



Native WVD

Microsoft

シンプルな 要件をカバー

- 低コストな仮想デスクトップ サービス
- Azure Monitor を含む、様々 な既存サービスの活用
- Azure Sentinel による脅威の 包括的な分析



Horizon Cloud

VMware

VDI で必須な 要件をカバー

- クラウド DaaS に対応するために開発された UI (管理コンポーネントも自動展開)
- ALL GUI でシンプルな管理と、 VDI に必要な主要要件を満た す機能を提供
- 画面転送を含めたネットワークの閉域化が容易に実装可能



Citrix Cloud

Citrix

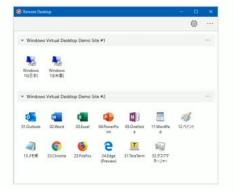
既存 VDI ユーザーの 要件をカバー

- 導入、運用が簡単
- きめ細かい高度なセキュリティ
- 優れたユーザー エクスペリ エンス

Citrix Virtual Apps and Desktops Standard

様々なクライアントをサポート

[App] Windows, iOS, Android, macOS, ThinClient









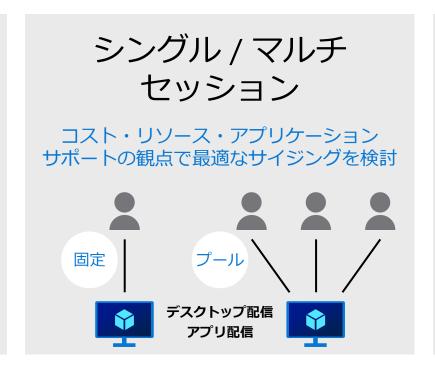
• [Web] Windows, macOS Chrome OS, Linux

Browser	Supported OS	Notes
Microsoft Edge	Windows	
Internet Explorer	Windows	
Apple Safari	macOS	
Mozilla Firefox	Windows, macOS, Linux	Version 55 or later
Google Chrome	Windows, macOS, Linux, Chrom	

導入時の考慮ポイント① (Azure 上の DaaS として押さえておくべきポイント)

Active Directory の配置 VPN / 専用線 運用 / 監視ポリシー セキュリティ ポリシー

> 重要な検討テーマでありつつ 後回しになりがち



従量課金 / 予約インスタンス

組み合わせて利用することも可能。 最もコスト効率の高いパターンを見出す

従量課金 ¥28_{/時間} 予約1年 ¥18_{/時間} 予約3年

¥12_{/時間}

D4v3 (4core, 16GB MEM), 東日本リージョンで試算







◆ Azure Monitor ◆ Log Analytics

VM からのインターネット通信

●オンプレ Proxy ● Azure Firewall

エンドポイント セキュリティ

Microsoft Defender for Endpoint

導入時の考慮ポイント② (ソリューション選択の観点)

運用負荷の見極め

Native WVD は機能強化が頻繁に行われ、 また VDI サービスを利用するために Azure 上の様々なサービスと連携

ネットワーク閉域化の 必要性

クローズドなネットワーク環境での VDI 利用を想定しているか否か

画面転送に必要な パフォーマンス

利用するアプリケーションにより RDP による画面転送で問題がないか確認



要件を満たし、かつ 運用面/性能面でも納得のいく DaaS ソリューションを選択







導入時の考慮ポイント③ (Azure上のサイジング)

小規模〜大規模環境における VM のサイジングに関する ガイドをご用意

Virtual machine sizing guidelines

02/16/2021 • 4 minutes to read • 🚇 🐠 🚭

Whether you're running your virtual machine on Remote Desktop Services or Windows Virtual Desktop, different types of workloads require different session host virtual machine (VM) configurations. For the best possible experience, scale your deployment depending on your users' needs.

Multi-session recommendations

The examples in this section are generic guidelines and you should only use them for inititables list the maximum suggested number of users per virtual central processing unit (vC for each workload. These recommendations are based on Remote Desktop workloads.

The following table shows an example of a smaller, proof-of-concept scenario with a user

Workload type	Maximum users per vCPU	vCPU/RAM/OS storage minimum	Example Azure instance
Light	4	4 vCPUs, 16 GB RAM, 32 GB storage	D4s_v3, F4s_v2, D4as_v4
Medium	4	4 vCPUs, 16 GB RAM, 32 GB storage	D4s_v3, F4s_v2, D4as_v4
Heavy	2	4 vCPUs, 16 GB RAM, 32 GB storage	D8s_v3, F8s_v2, D8as_v4, F16s_v2, D16as_v4
Power	1	6 vCPUs, 56 GB RAM, 340 GB storage	D4s_v3, F4s_v2, D4as_v4,

This table shows examples of standard or larger user workloads with 20 or more users:

Workload type	Maximum users per vCPU	vCPU/RAM/OS storage minimum	Example Azure instances
Light	6	8 vCPUs, 16 GB RAM, 16 GB storage	D8s_v3, F8s_v2, D8as_v4, D16s D16as_v4
Medium	4	8 vCPUs. 16 GB RAM. 32	D8s v3. F8s v2. D8as v4. D16s

Recommended VM sizes for standard or larger environments

We recommend limiting VM size to between 4 vCPUs and 24 vCPUs. We don't recommend using 2 cores or 32 or more cores for standard and larger environments. Why is that?

All VMs should have more than two cores

Windows 10 and its UI components rely on using at least two parallel threads for some of the heavier rendering operations. Having multiple users on a two-core VM will lead to the UI and apps becoming unstable, which lowers the quality of user experience. Four cores is the lowest possible number of cores that a stable multi-user VM can have.

VMs should not have more than 32 cores

As the number of cores increase, the system's synchronization overhead also increases. For most workloads, at around 16 cores the return on investment gets lower, with most of the extra capacity being offset by synchronization overhead. It is likely to get more capacity from two 16 core VMs as opposed to one 32 core one.

The recommended range between 4 and 24 cores will generally provide better capacity returns for your users as you increase the number of cores. For example, let's say you have 12 users sign in at the same time to a VM with four cores. The ratio is three users per core. Meanwhile, on a VM with eight cores and 14 users, the ratio is 1.75 users per core. The 1.75 ratio scenario offers greater burst capacity for your applications have short-term CPU demand.

For scenarios with 20 or more connections on a single VM, several smaller VMs would perform better than one or two large VMs. For example, if you're expecting 30 or more users to simultaneously sign in on the same session host within 10 minutes, two eightcore VMs will handle the workload better than one 16-core VM. You can also use breadth-first load balancing to evenly distribute users across different VMs.

It's better to use a large number of smaller VMs instead of a few large VMs because it's easier to shut down VMs that need to be updated or aren't currently in use. With larger VMs, you're guaranteed to always have at least one user signed in at any time, which prevents you from shutting down the VM. When you have many smaller VMs, it's more likely you'll have some that don't have any users signed in. You can safely shut these unused VMs to conserve resources, making your deployment more resilient, easier to maintain, and less expensive.

注意: サイジングはお客様が利用する環境に大きく依存するため 本番導入前に必ず検証を実施しいただくことを強く推奨します。



https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/remote/remote-desktop-services/virtual-machine-recs

導入検討時の確認

Azure イマージョン ワークショップで実体験

WVD を体験いただき、何ができるのか、 どう実現できるのかがわかる 1 日セミナー

形態:集合型、オンライン

アジェンダ例:

- ① WVD ができること、利用シナリオ例
- ② 利用者体験 (WVD の形態、使い方、 レスポンスなどを確認)
- ③ 管理者視点で運用イメージの疑似体験
- ※ 実施パートナー様により内容が異なります

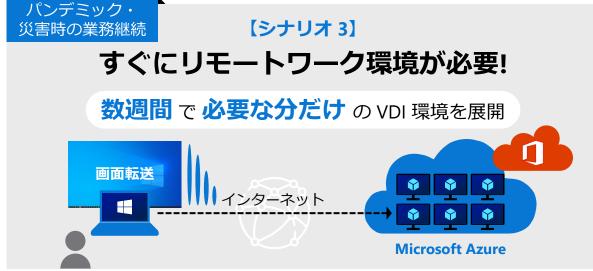
開催の詳細については 実施している各マイクロソフトパートナーにご確認ください



さまざまな WVD の活用法









便利ツール、学習コンテンツ

まずは

詳しく知りたい (公式ガイド)

MS Official Docs - 日本語

MS Official Docs - English

動画で知りたい

Desktop in the Cloud

WVD 環境をすぐに作りたい

WVD QuickStart Guide

さらに

環境構築のポイント

WVD アーキテクチャー デザイン ガイド 構築手順の動画

Azure Academy

自習書

オリジナル 日本語版

加えて

おすすめブログ

くらう道 (WVD 編)

Qiita (WVD)

ライセンス解説

WVD ライセンス ガイド

ロードマップ

WVD 公開ロードマップ

エンドユーザー様向け問い合わせ窓口

ご購入にあたり、本資料に記載の情報の確認などのご相談は下記窓口までお問い合わせください。

マイクロソフト セールスホットライン

0120-167-400

営業時間 9:00~17:30 土日祝日、弊社指定定休日を除く



本書に記載した情報は、本書各項目に関する発行日現在の Microsoft の見解を表明するものです。Microsoft は絶えず変化する市場に対応しなければならないため、ここに記載した情報に対していかなる責務を負うものではなく、提示された情報の信憑性については保証できません。 本書は情報提供のみを目的としています。 Microsoft は、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。

すべての当該著作権法を遵守することはお客様の責務です。Microsoft の書面による明確な許可なく、本書の如何なる部分についても、転載や検索システムへの格納または挿入を行うことは、どのような形式または手段 (電子的、機械的、複写、レコーディング、その他)、および目的であっても禁じられています。

これらは著作権保護された権利を制限するものではありません。

Microsoft は、本書の内容を保護する特許、特許出願書、商標、著作権、またはその他の知的財産権を保有する場合があります。Microsoft から書面によるライセンス契約が明確に供給される場合を除いて、本書の提供はこれらの特許、商標、著作権、またはその他の知的財産へのライセンスを与えるものではありません。

© 2021 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft, Windows, その他本文中に登場した各製品名は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。 その他、記載されている会社名および製品名は、一般に各社の商標です。